

がんとチーム医療 広報げろ 2007.11

がんとチーム医療

病院では時々遠くの病院でがんの手術を受けた方が受診されます。その中には再発など重大な病状の方もおられます。突然の急な受診ではそれまでの治療経過などの情報が無くて診療に窮する場合もあり患者の不利益につながることもあります。ご存知のようにがんは治療によって治ることもまた治療後に再発することもあるので手術療法ばかりでなく抗がん剤などの化学療法や、放射線治療などさまざまな治療法を組み合わせた治療が行われることもあります。また治療中や、進行したがんに対して主に痛みを抑える緩和医療なども行われます。さらにがんの手術のあとには腸閉塞などのさまざまな副作用が付きものです。このためがんの治療は後々まできめ細かな経過観察が大切です。

金山病院では、がんの治療はいつも受診できる近くの病院で受けられることがいまや国民病といわれるがん患者の生活支援になるという理念の下に、胃がん、大腸がん、乳がんなどの治療に力を注いできました。消化器がん、乳がんなどの手術を専門に行ってきた医師や麻酔医が常駐し、がんの手術、化学療法、緩和医療などに力を入れています。

設備などの点で金山病院での治療が困難な場合やさらに高度の医療が必要な場合は、がんセンターや大学病院など目的にあった病院を紹介し、そこの主治医と密接な連携を持って治療に当たっています。

現在わが国では、手術後の経過観察だけを行うような医師の養成は行われていません。また、がんはその病気の性質上手術から術後の治療、経過観察まで同じ医療チームで行われるのがよいと考えています。病院が遠いといって定期の検査を怠ったり、必要な治療を受けないで病状が悪化してしまうことを防ぐためにも指示に従ってきめ細かい受診を心がけていただきたいものです。

がんの治療が必要になったとき家族などの都合でやむおえず遠くの病院で治療を受ける必要があったとしてもまず近くの病院で相談していただきますとそこから希望される病院が紹介され、ここに病病連携が生まれ、がん治療のチームが形成され患者にとって最もよい治療法が選択されることになるのです。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦